

平成 20 年 4 月吉日

NPO 法人 21 世紀水倶楽部

ディスポージャー分科会

分科会代表 奥井 英夫

ディスポージャー研究会開催のご案内

拝啓、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より本会の活動に対して、ご理解とご協力を賜りますこと厚くご礼申し上げます。

さて、ディスポージャー分科会では、直投型ディスポージャーの導入に関する技術情報や普及・運用にあたっての実務上の課題をテーマとした活動を行っており、情報発信及び交流を目的としたセミナー等の開催を進めています。

このたび、第 3 回研究会として、『**直投型ディスポージャーを考慮した下水道システム ～普及を進める上での課題や対応策を考える～**』をテーマとしたセミナーを企画いたしました。ディスポージャーの導入は、生活環境改善の観点のみならず、生ゴミの減量、バイオマスイエネジー利活用の促進という観点も有しており、今後は、ディスポージャーを含めた社会システムのあり方を考慮しなければならない時期に来ていると考えております。

本研究会は、ディスポージャーの具体的な導入に関し、行政サイド及び民間サイドの両面からの報告・提案でもあり、ディスポージャーを取り巻く課題に興味にある方に役立つ内容となっておりますので、どうぞお気軽にお越しください。

何かとご多用の折とは存じますが、多数ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

敬具

直投型ディスポーザーを考慮した下水道システム ～ 普及を進める上での課題や対応策を考える ～

近年では、直投型ディスポーザーの設置を承認し、条例等において直投型ディスポーザーの届出などの扱いを定める自治体も増えつつあります。しかしながら、比較的簡単に個人でも設置できる製品であることや制度への認識不足等による未届け設置の問題や、便乗個別販売など悪質業者の問題など、実務上の課題が発生しています。また、ディスポーザーのメリットである住居環境の改善（悪臭や害虫等の被害解消）や、バイオマス活用などは、一定以上の普及が前提ですが、普及が遅いとメリットも得られにくい状況にあります。

このような状況のなか、今回のセミナーでは、直投型ディスポーザーの普及を前提とした社会システムの提案や課題と対応策をテーマに、これらの事業に直接関係する方々にご講演いただき、皆様との意見交換を行いたいと考えています。

1. 日 時： 平成20年5月14日（水） 13:30～17:00

2. 場 所： 財団法人 下水道新技術推進機構 8F 会議室
〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1

3. 定 員： 60名（申し込み先着順）

4. プログラム：（継続教育プログラム（CPD）：土木学会認定を予定）

13:30 開会（ディスポーザー分科会長 奥井英夫）

13:40～16:30 I 『ディスポーザー導入の考え方』

藤木 修（国土交通省 国土技術政策総合研究所 下水道研究部長）

II 『群馬県伊勢崎市におけるディスポーザー導入社会実験について』

淵上 俊次（伊勢崎市 環境部長）

III 『直投型ディスポーザーを前提とした社会システム』

矢野 明司（UNNM 環境技術研究所）

IV 『ディスポーザー設備の機能確保と購入時の留意点』

野中 豊（21世紀水倶楽部会員，セコムテクノサービス(株)企画室部長）

注：タイトルは調整中のため若干変更となる可能性があります

16:30～17:30 全体討議 司会：栗原秀人

（21世紀水倶楽部理事，下水道新技術推進機構下水道新技術研究所長）

17:30 閉会

5. 参加費： 会員・行政関係者：無料， 一般参加：¥2,000

7. 申込方法：21世紀水倶楽部のHPの申込フォームよりお申し込み下さい。

[問合せ] 21世紀水倶楽部 ディスポーザー分科会 清水 洽

k-shimizu@tyo.kubota-ksk.co.jp

クボタ環境サービス(株) TEL：03-3847-3801

8. 締 切： 平成20年5月8日（木）

※締切日前に定員に達した場合は、その時点で締切らせて頂きます。

※原則として1機関2名様までとしてお申し込み下さい。定員に余裕がある場合には増員が可能となることもありますのでお問い合わせ下さい。

直投型ディスポーザー (DSP) を考慮した下水道システム

～普及を進める上での課題や対応策を考える～

講演 I 『ディスポーザー導入の考え方』

講師：藤木 修 氏 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 下水道研究部長)

平成 17 年 7 月に「ディスポーザー導入時の影響判定の考え方」が公表され、各自治体における状況を踏まえ、直投型 DSP 導入についても、下水道管理者自ら、その可否を判定できるような情報が整理されました。その後も、DSP 導入の影響調査が進められています。

今回は、「考え方」の提示以降の各都市における動き、その後の調査研究の動向について述べるとともに、直投型 DSP の影響についての検討や、あり方を考慮される場合に参考となるような情報について協議したいと考えています。

II 『群馬県伊勢崎市におけるディスポーザー導入社会実験について』

講師：淵上 俊次 氏 (伊勢崎市 環境部長)

群馬県伊勢崎市では、社会実験として直投型 DSP 導入を推進しており、社会実験区域内 (中心市街地) で DSP を設置した個人に、市より最大 2 万円の補助制度を設けており、本市における DSP 普及政策の概要 (直投型 DSP の位置づけ、推奨に至った経緯、条例・補填金制度など) を紹介します。また、現在関連部局間スクラムによる市民への普及を行っていますが、普及方法、過去の試行錯誤、行政上の課題、今後の懸念事項などを述べ、意見交換への話題提供とする予定です。

III 『直投型ディスポーザーを前提とした社会システム』

矢野 明司 氏 (UNNM 環境技術研究所)

従来、夜久野町・湯沢町等において、バイオマス利活用を進める事業計画に携わってきており、この中で、直投型 DSP を前提とした生ゴミリサイクルを提案しています。

これらの経験から、直投型 DSP とバイオマス利活用のあり方を中心に、行政サイドで進めるべき事項・実際と課題の一方で、市民サイドあるいは企業や NPO 等で考えるべき事項・実際と課題もあると考えられ、(国に対して、自治体に対して、市民等に対して) 今後にむけての提言としての考え方を紹介したいと思います。

IV 『ディスポーザー設備の機能確保と購入時の留意点』

野中 豊 氏 (21 世紀水倶楽部会員, セコムテクノサービス㈱企画室部長)

DSP 普及時の課題の一つに、訪問販売等の悪質業者の存在や、設置後の不適切な管理などが挙げられますが、不適切な製品の排除を目的とした、必要以上の規格や仕様を定めることは、同時に、独占体制や未届け設置などをも増加させる要因にもなり得ます。

DSP 機能を確保する上では、機器細部の仕様よりも、個人ユーザーが適切に日常の使用を行うこと、故障時等の問い合わせに常時対応できるところからの購入・設置が重要であると考えられます。これらの留意点とともに、日本において、どのような状況が DSP の価格を押し上げているかについても簡単にご紹介したいと思います。

全体討議『日本における直投型 DSP の今後』

司会：栗原 秀人 氏 (21 世紀水倶楽部理事, 下水道新技術推進機構下水道新技術研究所長)

直投型 DSP を取り巻く様々な話題について、フリーディスカッションを行います。

- ・ 合流区域、生活排水処理未整備区域における導入
- ・ ごみ減量化・ごみ有料化やバイオマス活用との関連
- ・ 単体 DSP を含めた条例・規約 (DSP 登録制度, 利用料金, 補助制度, 無届設置対策) など

注：タイトル・講演内容は調整中のため、若干変更となる可能性があります。

直投型ディスポーザーを考慮した下水道システム ～ 普及を進める上での課題や対応策を考える ～

日時：平成 20 年 5 月 14 日（水）13:30～17:30

場所：財団法人 下水道新技術推進機構 8F 会議室

〒162-0811 東京都新宿区水道町 3-1

TEL：03-5228-6511（代），FAX：03-5228-6512

